

令和 3年 5月 10 日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立波野小学校（外 11校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立波野小 学校	http://www.sopia.or.jp/namino/wp/	http://www.sopia.or.jp/namino/wp/

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技の開催が予定されている。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

話せるようになりたい 65%
 どちらかというと話せるようになりたい 26%
 どちらかというと話せるようにならなくてもよい 9%
 話せるようになりたくない 0%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。

知りたい 61% どちらかという知りたい 30%
 あまり知りたくない 7% 知りたくない 2%

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う 50% どちらかというと思う 30%
 どちらかというと思わない 20% 思わない 0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う 70% どちらかというと思う 30%
 どちらかというと思わない 0% 思わない 0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う 20% どちらかというと思う 50%
 どちらかというと思わない 30% 思わない 0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。

(自由記述)

- ・グローバルな子供たちの育成につながると思います。英語に対する苦手意識がなくなります。
- ・外国の人と触れ合うこと。
- ・外国語に触れる機会を増やし、外国語に対する興味・関心を高めることに繋がればいいと思います。
- ・外国人のALTとのふれあい。
- ・学習としての外国語に対する苦手意識を持つ前に、コミュニケーションのツールとして楽しさをまず味わうことは、外国語の入口として有効であり、意味があることだと思う。
- ・楽しい活動を通して、英語に慣れ親しむこと。
- ・楽しく学べるといいと思います。

(4) 保護者による評価

- ① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	52%	どちらかというと思う	40%
どちらかというと思わない	6%	思わない	2%

- ② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う	57%	どちらかというと思う	37%
どちらかというと思わない	6%	思わない	0%

- ③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	37%	どちらかというと思う	41%
どちらかというと思わない	18%	思わない	4%

- ④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。

(自由記述)

- ・楽しく学んで、英語が嫌いにならないでほしい。
- ・英語に慣れ親しみ、楽しく英語を学んでほしい。
- ・意識させずに母国語意外の言語と接することで、より日本語の良さや使いやすさもわかって良いと思う。
- ・英語に慣れ親しみ、良い発音を耳にして欲しい。
- ・英語の苦手意識をなくすこと。
- ・外国語に興味を持つこと。学校での学びによって、より学習したいと思える機会が増えること。
- ・外国語に対してのハードルを低くすること。身近に感じて欲しい。
- ・外国語活動を通して、世界へ早い段階から目を向けることができること。
- ・楽しく英語に触れ、単語を少しでも覚えられたら幸いです。
- ・日本語や国語と同様に当たり前で学ぶものとしてとらえて、学べる環境になることです。

4. 実施の効果及び課題

- (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校においては、外国語に慣れ親しみ、進んで外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童が多く見られる。第1学年の児童について、全員が外国語活動の時間は「楽しい」「どちらかという楽しい」と答え、外国語活動を楽しんでいる。

また、第2学年では93%の児童が、外国語活動の時間が「楽しい」「どちらかという
と楽しい」と答えているが、一方で、7%の児童が「どちらかというとなじくない」と
答えているため、苦手意識をもたせない授業の工夫・改善が必要である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校においては、第1学年から外国語活動を実施してきた第6学年対象外部調査
「小学校英語トライアル」では、リスニングやリーディングにおいて、良い結果が出て
おり、第1学年から外国語活動を実施することにより、着実に力が付いていると考える。

一方で、音と文字の対応について苦手意識をもっている児童もいるため、音と文字
の対応についての指導の工夫・改善が必要である。

5. 課題の改善のための取組の方向性

本校では、第1学年から外国語活動に取り組むことで、外国語に慣れ親しみ、外国語
活動が「楽しい」と感じている児童が多い。また、進んで外国語でコミュニケーション
を図ろうとする児童が多く見られる。

しかし、学年が上がるにつれて、外国語活動を楽しく感じることはできない児童の割
合が増えている。特に、音と文字の関係についての理解が不十分なため、苦手意識が生
まれていると考える。児童にとって身近で興味があるものにつづりが添えられている絵
カードを使った言語活動などを行い、音と文字の対応への気付きを促す活動を増やして
いきたい。また、発達段階や文字と発音についての習熟度に応じて、フォニックスの指
導を取り入れていきたい。

昨年度から第5学年・第6学年において外国語が教科となった。本特例を生かし、教
科となっても子供たちが外国語の学習を楽しみ、必要とされるグローバルな視野をもつ
ことができるよう、さらに授業改善を進めていきたい。